2018年
9月15日号
第131号

日本統一運動
Newsletter

VISION 2020

Japan Unification Movement Newsletter

「2050年問題」に向けて日本の若者が提言

千葉・幕張で青年学生1万名大会

青年学生1万名大会

未来を担う若者たちが、2050年の日本が直面するであろう少子高齢化や地球温暖化などの諸問題の解決策を考える「提言JAPAN2050ユースフェスティバル」（主催・同実行委員会、共催・世界平和青年学生連合＝YSP、後援･世界平和統一家庭連合）が９月９日、千葉･幕張メッセで開催され、首都圏の青年・学生およそ１万人が集まりました。

開会に先立ち、９月６日に起きた北海道地震、西日本豪雨、台風21号の犠牲者の冥福を祈り、全体で黙祷が行われました。

午後３時、式前公演のトップバッターとして、鮮やかな色の衣装に身を包んだ青年たちが「南中ソーラン」のダイナミックな踊りを披露したあと、「Kanagawa Gospel Band」による迫力あるゴスペルと洗練されたダンスで参加者は総立ちで早くも大盛り上がりに。最後にダンスチーム「REVOLUTION　no.37」が若さを爆発させるパフォーマンスで参加者を魅了し、会場は冒頭から若者の熱気で包まれました。

開会式では、まず大会実行委員長の松田幸士YSP会長が主催者挨拶を行い、「危機的状況に立っているこの日本を救うために立ち上がり、歴史的な救国の“のろし”を上げていく大会を一緒につくりあげ、青年・学生による新しいムーブメントを起こしてまいりましょう」と呼び掛けました。

来賓による祝辞のあと、徳野英治・家庭連合会長がゲストスピーカーの文妍娥（ムンヨナ）・世界平和女性連合世界会長を紹介。「統一運動の創設者、文鮮明（ムンソンミョン）・韓鶴子（ハンハクジャ）総裁ご夫妻のご長男・文孝進（ムンヒョウジン）世界原理研究会元会長との間に三男二女をもうけられ、統一運動の未来を担うお子様方をよく教育される一方、全世界を巡回しながらグローバルな女性リーダーとして大活躍しておられます。文妍娥会長のメッセージを通して、韓総裁のメッセージが伝達されるとともに、来る2050年に日本と世界が直面する難問題に対し、明確な指針が示されることを心から期待しています」と述べました。

引き続き、会場の盛大な拍手に包まれて文妍娥会長が登壇。流ちょうな日本語で挨拶したあと、スピーチを始められました。

その中で、文妍娥会長は「私は９年間、世界平和女性連合で平和、教育、奉仕活動を通して、『日本は全世界の真なる母である』と感じてきました。過去24年間、全世界の子供、女性、家庭の教育を支援する日本のボランティアたちの姿に私は平和の希望を見てきました」と説明。「皆さんの姿を見て、本心の言葉に心を傾け、未来を心配しながら準備をしていく青年・学生のなかに大きな希望を発見しています」と語りました。

また文妍娥会長は韓総裁のメッセージ**（後述）**を代読したうえで、「誇らしい青年学生の皆さん、いまこの瞬間にも韓鶴子総裁は天の父母様を中心とした人類一家族の平和世界の実現のため、共生・共栄・共義の社会運動を実践しておられます」と強調。「『愛と幸せは分け与えれば分け与えるほど大きくなる』という韓総裁のみ言のように、（今大会を通して）共に成長し、新しい日本の未来を共に生きる主役となってくださることを心から願います」と述べ、最後も日本語で「皆さんの成長と成功を祈ります。ありがとうございました」と締めくくられました。

文妍娥会長への花束贈呈のあと、青年バンドが大会テーマソング「Voice」を力強く披露し、若者が立ち上がり、世界に向けてメッセージを発信していく必要性を訴えました。

韓鶴子総裁のメッセージ（要旨）

平和を愛する青年学生の皆さん、私たちは自由で平和な一つの世界を望んでいます。

しかし現在、世界は宗教や人種、文化の壁などで分裂し、自国の利益を優先して追求する現状にあります。このような動きは一つの世界に向かうに当たって障害物となります。

私たちの善なる本心は、平和で幸せな一つの世界を願っていますが、あまりにも多くの障壁があります。しかし本日、皆さんは大きな夢を持ってこの場に集いました。皆さんは真の父母と創造主・天の父母様と同じ夢を見ているのです。

天の父母様は、人間に対する夢をお持ちでした。人類の真の父母になろうとなさったのです。天の父母様の夢、真の父母様の願い、人類の本心は、天の父母様を中心とした人類一家族です。私たちは天の前に一つの兄弟姉妹なのです。

今日、私たちは人種、文化、宗教、国籍など多くの違った背景を持っていたとしても、ヒマワリが太陽に向かって整列するように、天の父母様の下の人類一家族に向かって、私たちは整列すべきです。その気持ちが、ヒマワリに劣る人間であってはいけません。

天の父母様の本質であり、真の父母様の教えである「為に生きる真の愛」を実践し、人類の前に孝情の光となっていただきたいと思います。

私たちが願う一つの世界は決して遠くにあるのではありません。わが家庭、わが国において天の父母様の夢を成し遂げるため、「為に生きる真の愛」を実践するとき、平和な一つの世界が可能となるのです。

天の父母様を中心とした人類一家族の夢がかなう日に向かって、皆さんが力強い歩みを進めてくださることを祈ります。

[制作]
世界平和統一家庭連合
広報文化局

①迫力ある歌声を披露した「Kanagawa Gospel Band」　②花束を受け取られる文妍娥会長
③「REVOLUTION no.37」の若さ溢れるダンスパフォーマンス　④挨拶をする徳野英治会長

“家族崩壊”“地球温暖化”などで具体策を提案

引き続き、32 年後の日本と世界が直面すると予想される「2050 年問題」に対し、20 代の若者 4 人が独自の観点から「提言」を行い、問題解決に向けたアイデアを競い合いました。**(要旨を後述)**

審査員団と参加者による投票の結果、「グランプリ」は憲法に家族保護条項を明記することを訴えた稲毛智英(ちえ)さん（大学 4 年）が、「準グランプリ」は地球温暖化対策を提言した村木昌弘さん（大学院修士 2 年）が獲得。他の 2 人も奨励賞を受賞し、それぞれ文妍娥会長から記念品が授与されました。

「閉会式」では、大会の“目玉”企画の一つだった「世界記録」への挑戦結果が発表。会場内に張り出された付箋 1 万枚余りで作成されたメッセージ「DON’T LOSE YOUR VOICE! WE WILL STAND FOR JAPAN 2050!」（あなたの声を失わないでください！私たちは 2050 年の日本のため立ち上がります！）が、「付箋で作った最大の文章」として世界記録を達成したことが報告されると、会場は盛大な拍手に包まれました。

続いて、参加者を代表して青年男女二人が大会宣言文を読み上げ、「2050 年問題」の解決に向けて、今後も若者たちの叡智を結集していく決意を表明。

大会のフィナーレでは、青年バンドの演奏とともに大会テーマソング「Love Is Forever」を会場全体が心を一つにして歌い、司会の閉会宣言をもって大会は閉幕しました。

環境問題解決のトップリーダーになろう

大学院修士２年
村木 昌弘

今日、世界では地球温暖化が深刻化し、各地で異常気象が起こっています。地球温暖化が進むのは、自然が急速に失われているからです。2050 年には、地球の“クーラー”の役割を果たしている原生林がなくなってしまう恐れがあります。

地球温暖化を解決する切り札となる「モリンガ」という木があります。モリンガの最大の特長は、温暖化の原因となっている二酸化炭素(CO2) の吸収力が一般的な木の 20 倍もあることです。

世界には自然が吸収しきれない CO2 が 150 億トンありますが、モリンガ 100 億本を植えればすべて吸収することができます。私たち日本人が 1 人当たり 100 本ずつ植えれば、地球温暖化を食い止めることができるのです。モリンガの植林を推進し、日本が環境問題を解決する世界のトップリーダーになりましょう！

世界の人々と共生する日本社会

大学４年
瀬畑(せばた) 仁喜(みき)

日本は少子化のため 2050 年には人口が 9700 万人まで減り、高齢化によって日本は老人大国になると言われています。労働力不足の打開策として、外国人の雇用が既に進められています。彼らに日本社会の一員になってもらわなければ、日本は立ち行かない状況なのです。

①大会宣言文を読み上げる参加者代表　②大会のフィナーレ　③「世界記録」認定証を受け取る松田幸士 YSP 会長（右）
④世界記録を達成した付箋で作ったメッセージ

付箋で作ったメッセージで「世界記録」達成

日本人と外国人が共生する社会をつくるため、①自治体レベルで日本に長く住む外国人を「タウンライフ･アドバイザー」として雇用し、日本になじめない外国人をサポートする②日本人が外国人との“壁”を壊す――ことを提言します。

日本はこれまで、世界の問題解決のため尽力してきました。これからは世界から人々がやって来て日本で働き、日本の経済を助けてくれます。国を超えて助け合い、ともに力を合わせて新しい日本をつくっていきましょう！

災害大国日本の2050年

社会人
牧 孝治

南海トラフ地震や巨大台風など甚大な被害を与える災害が 2050 年までに起こる可能性が高いと言われています。先日も台風 21 号、そして北海道で地震が発生しましたが、被災地ボランティがいま注目を集めています。

被災地ボランティアに参加するうえで最も大切なのは、ボランティアの「心」です。この心は実践や体験を通して育まれるものです。私も東京･八王子市で地域ボランティアを続けるなかで、困った人を助けるために動くボランティアの心を備えることができたと実感しています。

そこで私は、全国のすべての学校の道徳の時間にボランティア体験学習を導入することを提言します。

地域の清掃ボランティアや花壇の花植えボランティアなどの体験を通して、子供の頃からボランティアの心を備えておけば、いざ災害が起きたときに迅速に助け合う文化が生まれると思います。

2050 年、ボランティアの心のネットワークが広がり、素晴らしい日本となるよう、ともに努力していきましょう！

憲法で日本の家族を守る

大学４年
稲毛 智英

少子化や人口減少問題を抱える日本は正に国家崩壊の危機に直面しています。私たちは憲法改正によってこうした問題を解決できます。なぜなら、憲法は国のビジョンや方向性を示す羅針盤だからです。

そこで私は、憲法に国をあげて家族を保護する「家族保護条項」を明記することを提言します。

「家族保護条項」が憲法に規定されれば、家族を保護する国家予算を設けることができ、家族を支援する法律を支援しやすくなり、地方自治体においては、家族を守る条例を制定しやすくなります。そうすれば若者が結婚や家族の価値を学ぶ環境が整備され、若者の結婚をサポートしやすくなり、非婚化・晩婚化を解決していくことができます。

国の根幹である家族を大事にすれば、必ず発展します。ですから憲法を学び、家族保護条項の必要性を周りの人にぜひ伝えていってください。

青年が本気になれば、日本を動かすことができます。ぜひ一緒に家族の愛があふれる明るい日本の未来をつくっていきましょう！

①大会勝利を祝うケーキカット　②メッセージを語られる文妍娥会長　③代表報告祈祷をする堀正一・家庭連合副会長
④荒川家庭教会青年部によるコーラス　⑤足立家庭教会の青年メンバーによるダンス

①挨拶をする徳野会長　②大会の経過報告を行う田中第１地区長　③「勝利提議」を行う李副会長　④感想を述べる松田 YSP 会長
⑤文妍娥会長に記念品を贈呈　⑥感想を述べる栗原沙莉衣さん（大学院生）⑦最後に全体で億万歳四唱を行った

“責任を果たす孝行息子・娘となりましょう”

青年学生1万名大会「祝勝会」を開催

青年学生1万名大会の大勝利の余韻が残るなか、午後6時から大会会場近くのホテルで「祝勝会」が開催されました。

竹内啓晃・青年学生局長の司会で進められた祝勝会は、花束贈呈、祝賀ケーキカットなどのあと、田中富広・第1地区長（副会長）が大会の経過報告を行い、「今大会では、全国から若者が集ってくる首都圏から救国の“のろし”を上げることを目指しました。家庭連合のすべての若者たちを抱えることのできる社会運動をスタートさせると同時に、愛国運動として少子化問題や非婚・晩婚問題に取り組みながら、祝福結婚へとつなげていければと思います。全国に希望を与えることのできる首都圏の青年・学生運動となれるよう、今後も取り組んでいきます」と述べました。

続いて、徳野英治会長が挨拶し、次世代を担う二世・三世たちに大きな期待と関心を寄せておられる韓鶴子総裁がこのたび、文妍娥会長を日本に送ってくださったに深い感謝の言葉を述べました。

また徳野会長は「文妍娥様は、女性連合の世界的な役割を担うとともに、模範的な“お嫁さん”として真のお母様（韓鶴子総裁）を側でお支えする重要な役割を担っておられます。お母様の心情の基台となり、どれほどお母様の慰めとなっているのか痛感しています」と語りながら、文妍娥会長が今後ますます大きな役割を担っていかれると語りました。

引き続き、李成萬（イソンマン）・家庭連合副会長が「勝利提議」（乾杯の音頭）を行い、晩餐の時間となりました。

晩餐に続いて、松田幸士YSP会長が大会の感想を述べ、韓鶴子総裁が文妍娥会長を送ってくださったことに感謝の言葉を述べながら、「（お二方の）愛で日本の若者が復活し、生まれ変わりました」と強調。そのうえで「YSPはこれからも、若者たちが“英雄”となり“世の光”となって、社会に影響を与えていけるような取り組みを続けていきます」と抱負を語りました。

続くエンターテインメントでは、荒川家庭教会青年部のコーラス隊が「You raise me up」など2曲を力強く歌い上げたあと、足立家庭教会青年部のメンバーがコミカルに“バブリーダンス”を披露。最後は、千葉鮮鶴合唱団が透き通った歌声と愛らしい振り付けを披露し、会場を和やかな雰囲気にしました。

文妍娥会長がメッセージを語り、「きょうの大会は、本当に準備され、精誠が込められた素晴らしいものでした」と強調。「父母にとって、子女を立派に育てることは最大の喜びです。足りない子女がいたとしても、成長させて素晴らしい姿に育てることは、天の父母様・真の父母様から学んだ愛です。父母の心で子女を育て、自分よりも立派に育てるため投入することの貴さを確認することができ、本当に感謝しています」と語られました。

また、文妍娥会長は「“母の愛”は偉大です。真のお母様は私たちに継続して機会をくださり、許してくださり、足りない子女であっても『孝行息子・娘として認めたい、誇りたい』と思っておられます」と説明。そのうえで「お母様が地上にいらっしゃる間に、私たちは孝行を尽くさなければなりません。責任を果たすためにさらに頑張っていきましょう」と呼び掛けられました。

文妍娥会長に記念品が贈呈されたあと、本山勝道・日本CARP会長のリードで億万歳四唱を行い、祝勝会は閉会しました。

祝勝会の参加者